時事新報

時事新報は日本國中唯一の每日刊行新聞紙なり

第二千四百二十三號
明治廿二年九月廿五日　水曜日
舊曆己丑九月朔日（甲、辰）
日出午前五時三十二分
日入午後五時三十三分
月出午前五時十六分
月入午後五時五十七分
滿潮午前五時三十分
滿潮午後五時四十七分
（西曆一千八百八十九年）

郵便條例改正實施に付

過般遞信省にては郵便條例中に改正を加へ新聞紙の遞送料を半減し書籍の定量を加ふる等我郵便制度に一大改良を施し來る十月一日より之を實施するに就ては時事新報社は此改正の社會に與ふる利益大なる可きを信じ之が祝意を表する爲め來る十月一日の時事新報には

後藤遞信大臣前嶋遞信次官の肖像を印刷したる附錄を添へ且つ當日の新報は臨時二萬枚の增刷を爲し無代價にて之を世間に配布す

九月　時事新報社

時事新報

擬國會討議會

來年の第一國會には如何なる議員が出席す可きや兼ねて書生より出身して演說討論の技に長じ雄辯家として評判を得たるものもあらん或は財產名望を以て推されて議員の撰に當り意見も相應に立ち辯舌も相應に巧なれども本來公席演說を試みたることなく議事の細法、議言の體裁、彼れ是れ不案內の箇條多くして不慣れの國會に不慣れの議員、每度奇談を演出す可きもあらん左まで怪しむに足らざれども其不慣れなるを以て進退或は度を失ひ敗を議場に取るやうの始末ありては當人の迷惑、同派の不利、隨て國會の不面目にして苟も國會議員たらんとする者は豫め其邊の不都合なきよう用意の上にも用意して議會に自說を述ぶるにも坐作應對都て體裁よく政事家らしく運動するの覺悟こそ專要ならん西洋諸國の政事家は少小辯論を練磨して幾度となく公席の演說を試み國會も祖先傳來の物にして其議事體裁等の如き普通世間に知れ渡りて議員が進退語默する其呼吸の工合に至るまで目に視、耳に聞き心を以て心に傳へて人能く之を合點することなれども然れども彼の政事家が議會に言論するの前後には用心至て手厚くして終日その所言を練磨する者さへあり傳へ聞く故英國大宰相ビーコンスフヰールド伯は議論風生滿座を罵倒するの氣ありと雖も其國會議場に於て國家問題を論ぜんとするに當りてや連日腹稿を案じて止まず夫人と馬車に合乘して議院に赴く途中にも始終之を思ひ續けて其時に限り夫人と一言をも交へざる程なりしかば一日夫人は伯が國會に出席せんとするの際、窓戶に指を傷けて劇痛堪へ難き程ありしかども之を伯に告げて其論案の工風を妨げんとを恐れ伯の議場より退出する迄所痛を色に顯はさゞりしと云ふ又昨年末の事なり英國下院に愛蘭自治案の大討議ありてグラットストーン氏は凡そ三時間餘の長演說を爲しさりしが當日氏の議場に赴かんとする前、居館ハーデン城より令息急病の電報を得たり然るにグラットストーン氏の夫人は其電報を受取りて默して氏を議場に送り氏の演說を終るを待ちて徐に其實を告げたりと云ふ右は英國二賢夫人の佳話なれども夫人の用意如何を見て乃公用意の一端を知るべく生れながらにして國會を仰ぎ、長ずるに及んで國會に入り幾十年間經驗を積んで國會議場を自家と爲し之を視ること書齋の如く又座敷の如くにして談論滔々傍若無人の外觀あれども實際國家の問題を講じて其是非討論の局に當れば小心翼々前以て用心すること此くの如し此割合を以て云ふときは我國會の議員の如き本來無經驗の事なるが故に幾重にも其用心を重ねて自身の功名、自黨の名譽、結局國會の面目を全うするの覺悟專一にして今より準備演習す可きものは種々樣々ならんと雖ども我輩は其方法の一箇條として擬國會討議會を勸めんと欲するものなり抑も擬國會討議會と申すはParliamentary Debating Societyと稱して最も英國に行はれ開會は眞の國會と大抵同時期にして歲の十一二月頃より翌年の三四月頃に掛け凡そ五箇月間を一期と爲し一都會一地方の代言人、市會議員、新聞記者若くは諸商館の壯年書記等未來のM. P.（國會議員を云ふ）を期する者が五百名乃至千名ばかりも協同して爰に右討議會を作り會費は一期間若干と定めて入會の時に之を集め斯くて相應の會場を借りて一週間凡そ一回の討議を開くの手順にして會場の體裁議事規則等總べて眞の國會を寫して議員は夫れ〳〵撰擧區を定め在朝在野兩黨の領袖は前面の席に相對して先達は自黨の掛引を差圖し討議に先ちて質問を試み或は新議題を以て我れより進んで戰を挑み或は議論の結末に全議員の投票に由りて內閣の信認を試むるが如き一々國會法に因りて時々流行の問題を討議しグラットストーンを氣取る者あればチャーチル、チャムバレーンを扮するものもあり傍聽男女は客棚に滿ちて各新聞紙は之を筆記し其論勢の向ふ所、實際人心を支配して其土地出身の國會議員は暗に其支配を受くるなどの趣もあり習慣の久しき之れに伴ふ細事情は種々樣々なりと雖ども今暫く之を擱き此討議會の方便に因りて少壯國政に注意する者に國會作用の妙を知らしめ將た此小國會の議論に因りて土地の政治思想を養ひ他日此會衆中より撰まれて代議士となるものあれば俗に云ふ議事慣れたるの姿にて萬端都合よく其責任を盡すとを得べし今彼の英國の如き代議政治の本山と仰がれ先祖代々の熟練に因りて巧に國會を運用する國柄なれども國民一般に其事を重んじ未來の國會議員たらんとする者が演習修練の功を積むと此の如くなるに然るに我新國會の議員たり候補者たらんとする人々が今日只今第一國會開期の切迫するを觀て漠然として此邊の用意なきが如きは國會を重んずる者の所爲と云ふ可らず我輩は每度我が國會の大成を期するの精神に於て官民政治に志ある者が今より彼の擬國會討議會の方案を導き第一國會開場前に其作用を演習して反覆熟達事に當らんとを勸告するものなり

雜報

○海軍省の經濟　我國は四面環らすに海を以てし一旦事變の起るあらば第一に日本國民の賴みとする所は海軍あるのみにして平常無事の日樽俎の間に決し得べき事さへ往々意の如くならざるものあれば何は兎も角我海軍は如何にと思ひ思ふて玆に至れば何人も我海軍の微々たるを歎ぜざるはなし去れば當局の人は常に觀察熟考樣々の計畫工風を爲し何とかして之れが擴張隆盛を圖らんとせしは數年來度々の事なれども何時も究極の疑問は海軍の仕事たる一艘の軍艦一門の大砲と雖も之を製造するには莫大の金を要し其外瑣末の事に至るまで陸軍に比すれば多々の入費を要する事にて斯く入費勝ちなる海軍をして今日に立つ程著しき進步を爲さしむる迄には少々ならざる擴張費を要すべし去り迚日本今日の事情は到底簡樣なる計畫の實行を許すべきに非ず就ては今の時に當りて唯だ〳〵出來る丈け現在の組織に改良を加へ冗費を省き贅員を汰し其節し得たる金を以て軍艦を作り漸時以て之を擴張し將來の隆盛を圖るの外なしとの說もありて過般來海軍省にては他省に卒先して官制の改革を行ひ冗費贅員沙汰の事もあり武官俸給減少の事もあり又た軍艦乘込員變更の事もあり着々之れを實行し來りし事あれば當局者に於て固より今後尙ほ之れが實行を怠らざるべしとの事なるが聞く所に據れば海軍兵卒一人の被服費は陸軍兵卒の被服五人の費に當るとの事なり此れは勿論海軍兵は或は陸軍兵卒に比すれば仕事の荒々しきと云ひ外國に對する外見と云ひ旁々以て多少費用多きは云ふまでもなき事なれども一は陸軍にては古服保存の法其外諸般の用意あるより餘程其邊の經濟宜しきを得たるあり海軍にても若し此等の仕組に依り尙ほ經濟の處置を爲すあらば一人に對する五人の割合は先づ三人位迄に節し得る事あるべく又た今日の處にて常備艦隊の修覆法は例へば十艘を一艦隊とすれば此艦隊は常に十艘打揃ふて航海するを以て破損する時は又常に十艘共に破損する頃にてソレ破損と云へば十艘打揃ふて入渠する次第なるが斯くては造船所の困難は勿論或は事瑣細に亘るやも圖られざれども外國軍艦の修繕を依賴し來る事あるも十艘の修繕の爲に全く拒絕せざるを得ず從て其軍艦は他國に航し修繕を加ふるに至る可く又十艘一時に破損する時は渠の都合に依り其軍艦の內にて空しく船渠の明くを待たざるを得ざるべし尙ほ過般乘込員變更の際如何なる故か是まで陸にありて海軍省中の事務に熟せし人にして而かも其人は最早斑白の老人なれば其儘に据へ置く時は割合に多くの用を爲すべしと思はるゝ人にして軍艦乘込員となりしものもある由なるが此れは人物採用上の事なれども其利用如何に依り結果は矢張經濟上に損失を成す事なり此般の事當局者に於ては既に注意する所にして漸時實行の見込もある事ならんが兎に角海軍擴張の爲めに冗費を除くとせば深く經濟上に注意すべき事なるべしと云へり

○縣債特許　福岡和歌山奈良三縣下水害の報道は屢々記載する處なるが就中福岡縣の如きは差向損害修繕費の豫算調査は其金額六十四萬九千餘圓の由なるが內二十萬圓は既に安場同縣知事よりの請願に依り政府より補助費を下附する事となり餘は地方稅町村費の負擔する處なるが目今の景況何分至急支出の見込も立難く依て縣債を募り之を補充せんと其筋へ出願中なりしが縣債の儀は容易に之を許可せらるべきにあらざれども猶豫なし難き場合に付右修繕費の內十五萬六千圓の縣債を今度特別に許可されしと

○農商務省小改革
取扱方を改革せ
勤あるが來月より
番を專務とし玄關
あり又會計局中に
○郵便配達改正
村の分合せしもの
し村の一名稱と
を乙局へ送付して
等の事あり爲め
此際遞信省にて
郵便局の配達區
して目下該演習
○參謀旅行演習
少佐フォンヴィー
執行する秋期參謀
して未だ同演習の
をなし居るよし
○新舊區長の事務
て撰擧したる東區
男川貫福（大坂府
議員）北區長選
職を承諾し且つ
會及び知事の署
しに就き同市參
十五日には新舊
を定め來月一日
といふ尤も備員
は實際事務に差
同しく二百八十
○工事費の增額
事は此度其期限
に付更に該工事
ありしと
○奉遷使の出發
日を以て執行す
られ居る九條掌
東京を出發する
○燈臺標杭の破
地方の燈臺標杭
餘箇所あり何れ
が費用の豫算は
中なりと
○大久保交際官
保學而氏は近々
任所に外務の
○技手派遣　遞
付けある電信機
派遣したるよし
○加藤木重敎氏
氣會社にて修業
驗あるとに依り
○電話機の製造
今電燈及び蓄電
開局の筈なる電
十個を製造中な
○筑摩俱樂部の